

## IoT 新時代の未来づくり検討委員会 人づくり WG 障害者 SWG（第3回）

○日時：平成 30 年 1 月 11 日(木) 10:00～12:00

○プレゼンター

- ・ 文部科学省 森下様、橋田様
- ・ 厚生労働省 村山様
- ・ 公益財団法人共用品推進機構 星川様
- ・ 棟方構成員
- ・ 社会福祉法人グロー 牛谷様

○主な議論

- ・ 学校のコンピュータは、教育委員会でホワイトリストによるフィルタリングをかけるが、マルチメディアデジターの教材コンテンツがほとんどの教育委員会のホワイトリストに入っておらず、ダウンロードしたくてもできないという問題がある。
- ・ ホワイトリストの作成も含め、学校では情報関係の先生一人が ICT に対応している現状を改善する必要がある。
- ・ 今後、デジタル教科書の導入が検討されている中で、音声デジターの取り扱いについても検討していくこととなるだろう。
- ・ 教育における ICT サポートにおいて、人が足りないという問題はあるが、結局は人件費として予算に帰着する。(これについて) ICT については、ネットワークがつながっていればリモートでサポートすることも可能であり、そうしたことを検討することも重要ではないか。
- ・ 共用品推進機構の「よかったこと調査」のように、現場でサービスの支援を受けた方の生の声を反映していかないと、様々なサービスが本当に需要と合致していたのか検証ができない。
- ・ 電話リレーサービスの障害者への周知については、会員登録可能な 7000 名という規模を踏まえて実施。募集をすれば、それほど時間をかけずに埋まるので、受け入れ体制が整っている範囲では、十分利用いただいていると考えている。
- ・ 障害者、高齢者へのアクセシビリティを確保すべく、JIS 等の標準化が進められてきたが、当事者の方からもどのような配慮がなされているかわかりにくいとの声があり、それぞれの情報機器等のアクセシビリティの状況に関するデータベース作りが進んでいる。
- ・ IoT に用いる精度が高い機器は衝撃に弱く、故障しやすいという難点があり、この点については改善していただきたい。
- ・ 障害者の方の IoT による生体情報の取得、カメラを利用した見守りに当たっては、情報の漏洩に関する懸念に十分に対応していく必要がある。